

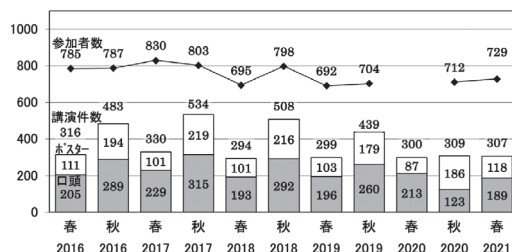
2021年度春季大会の報告

2021年度春季大会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、当初予定していた最終日（5月21日）の筑波大学大会会館（茨城県つくば市天王台1-1-1）でのシンポジウム・総会・授賞式・受賞記念講演の開催は行わず、すべてインターネットを介したオンライン開催とした。

大会は、一般講演、並びに特定のテーマに基づいて世話人が編成する7件の専門分科会で構成された。発表形式は、大会ウェブサイト上に発表資料を掲載し、ウェブサイト上で質疑応答を行う新形式のオンデマンド講演と、ウェブ会議システム（Zoom、以下同様）によるオンライン口頭セッションの二通りの形式を導入した。オンデマンド講演は全講演者を対象とし、口頭セッションは希望者のみを対象として実施した。一般講演の発表件数は221件（内、口頭発表103件）、専門分科会は86件（すべて口頭発表）で計307件であった（第1図）。

気象学に興味を持つ高校生・中学生を対象としたジュニアセッションが、一般講演や専門分科会の講演同様のオンデマンド講演形式で32件の発表があり、そのうち17件は5月19日夕方からウェブ会議システムにて口頭発表を行った。

5月21日午前は、ウェブ会議システムによるシンポジウム「超学際研究の推進に向けて ～関連諸学会・一般社会との連携～」が開催され、5件の基調講演と総合討論が行われた。午後は各賞の授賞式が行われ、茂木信宏氏に日本気象学会賞が、鬼頭昭雄氏と山内恭氏に藤原賞が、石井正好・森 信人両氏に岸保・立平賞がそれぞれ授与され、各賞受賞者による記念講演が行われた。またオンライン交流ツール（gather.town、以下同様）を用いて、従来の懇親会に準ずる交流イベントを開催し、大会実行委員長や理事長の挨拶、



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数（口頭、ポスター）。2021年度春季大会および2020年度秋季大会のポスターの件数は、オンデマンド講演のみを実施した講演の件数。2020年度春季大会は予稿集の発行により大会開催としたため、参加者数は無しとした。

挨拶、気象集誌論文賞・SOLA論文賞・松野賞の各受賞者の紹介およびスピーチ、歓談等が行われた。

ウェブ会議システムにより、5月17日には第53回メソ気象研究会・気象災害委員会合同研究会が、5月19日夕方には第9回気象学史研究会が開催された。同日昼には、オンライン交流ツールを使い、女性会員の集いが開かれた。

今大会の開催に当たり、13の企業・団体からご協賛・ご協力ならびにリクルートブースご開設を頂きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、大会実施にあたり、筑波大学、宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農研機構、防災科学技術研究所、電子情報委員会、教育と普及委員会、人材育成・男女共同参画委員会の皆様にご協力を頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2021年5月 講演企画委員会